

平成30年度
事業報告

〔Ⅱ〕

社会福祉法人諏訪ノ森会
各施設

目 次

I. 介護老人保健施設いちい荘	・・・	1～ 7頁
II. 指定介護老人福祉施設樹の里	・・・	8～12頁
III. 在宅介護支援センターえんじゅ	・・・	13頁
IV. 居宅介護支援事業所はなまる	・・・	14頁
V. 訪問看護ステーションひまわり	・・・	15頁
VI. ヘルパーステーションコスモス	・・・	16頁
VII. デイサービスセンター実見	・・・	17頁
VIII. グループホーム星遊荘	・・・	18頁
IX. グループホームはくちょう荘	・・・	19頁
X. グループホーム宮田館	・・・	20頁
X I. ケアハウスリラ	・・・	21頁

I. 介護老人保健施設いちい荘

事務部業務報告

(担当：西村 喜文)

I. 【ミッション】

施設全体の窓口として、迅速かつ正確・丁寧な対応を心がけ、外部内部との繋がりを確たるものにする。

II. 【ビジョン】

「明るく楽しい活動的な施設」という雰囲気や環境づくりをする。

III. 【ストラテジー】

お客様を最初にお迎えする場であるため、常に笑顔で、自分から先に気持ちや心を表現する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 人材育成。

施設内研修、学習会へ積極的に参加し、認知症への理解を深める事が出来た。

2. 常に笑顔で接し、面会で来荘された家族様へ声掛けを通しコミュニケーションを図った。

3. 玄関ホール・廊下等に季節に合った飾り付けを行い、来荘者や入所者様の話題作りになった。

4. 感染症（インフルエンザ・ノロウイルス）流行防止の為、面会に来られる家族様等へ受付時に体調チェックを行い、施設内へ感染症を持ち込まないように注意喚起を行った。

5. 電話のかけ方・受け方。

利用者様や家族様、関連業者等からの電話の受け答えには、思いやり、気配りを持って対応することができた。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

関連部門への情報提供。

1. 月々の入所（短期入所含む）、通所利用料の入金、未収の情報を把握し、各部門へ提供することが出来た。

2. 利用者様からお預かりしている通帳と台帳との照らし合せを行い、残高不足とならないよう努めた。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. いちい荘事務部コピー機使用枚数 4,178枚（前年比 11%（471枚）減）

2. コピー用紙・切手購入に関し、過剰在庫を持たないように管理を徹底した。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

1. 受付での入出金処理は、お客様を待たせる事が無いよう次年度に向けより早く正確に処理対応できるように努めた。

2. 本部が受付業務を行うにあたり、情報共有と申し送りを徹底した事で、効率よく業務に当たる事が出来た。

VIII. 評価

1. 受付時における面会者への体調チェックを行い、マスクの着用等を促した結果、感染症（インフルエンザ・ノロウイルス）の施設内への持ち込みを防ぐ事が出来た。

2. 接客時や電話対応時の新たな電話や来客対応のフォローは、本部に協力を仰ぎ体制の強化が図れ、スムーズなご案内が出来ようになった。

3. 古くなった来客用スリッパを処分し、新たに名入りのスリッパを購入。滑りにくく、足が疲れないスリッパに変えた事で、顧客満足に繋ぐことが出来た。

IX. 課題

1. 消費税率引き上げによる介護報酬改定に伴い、家族様等からの質問があった際には、正確に受け答え出来るように情報を収集し備える。

2. 受付周辺的环境整備を行う。（古くなった置物等の入れ替えや、清掃作業）

支援相談部業務報告

(担当：中嶋 洋子)

I. 【ミッション】

お客様（利用者様や家族様等）と信頼関係ができ、気軽に何でも相談いただける関係を構築する。

II. 【ビジョン】

お客様（利用者様や家族様等）が満足していただける対応を心掛ける。

III. 【ストラテジー】

コミュニケーション技法の取得と制度の解釈・知識を習得し実践する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 相談や利用申し込みは、家族様の希望に合わせた時間にスピーディーに対応した。
2. 入所後の利用者様の状態を各職種で検討し、本人様、家族様の意見を反映し施設サービス計画書を作成した。
3. 入所後の方向性について家族様と面談。法人内のグループホームへ12名、ケアハウスへ1名、特別養護老人ホームへ10名の利用者様が退所となる。
4. 通所リハビリテーションの利用状況を把握し、居宅介護支援事業所と連携を図り新規利用者様を獲得出来た。
5. 慰問の受け入れは、関係機関と日時の調整を行い、保育園等の受け入れを実施した。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用率(%)	94.47	94.71	93.13	95.68	92.19	93.73	94.29	94.13	94.94	95.32	94.64	93.90	94.26
稼働率(%)	95.43	96.06	94.37	97.16	93.35	95.33	95.87	95.67	95.87	96.16	95.86	95.35	95.54

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
空床数(日)	166	164	207	134	242	188	177	176	157	145	150	189	2094

1. 入退所状況の把握を行い、新規利用者様のご案内を円滑に行うとともに短期入所利用に関しては随時追加利用に対応できるように調整した。
2. 利用者様・家族様に介護老人保健施設の役割の説明を行い、面会時に時間を頂き今後の方向性等について説明、確認を実施した。
3. フロント受付センターや居宅介護支援事業部門と連携を図り新規利用予定者の調整を行った。

VI. 経費に関する重点項目：効率的な投資とそれを実現するための削減の具体策

常時必要物品の管理・把握に努め、過剰購入することなく実施した。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善策の具体策

定期購読書（全国老人保健施設協会）を読み、世間の情勢を理解し必要な箇所に関しては部内で伝達し合った。

VIII. 評価

毎月の新規利用者様の獲得に対し、状態不良による入院や死亡者の人数が同等もしくは上回ることが多く、稼働率アップにつなげることができなかった。来年度も予測を立てながら、利用者様の確保に努めていきたい。

IX. 課題

1. 介護老人保健施設としての役割を理解したうえで十分に利用者様へ伝え、地域に貢献できる体制を構築していく。
2. ベッドの回転率を上げると同時に、利用率100%を目標に関連部署（フロント受付センター、居宅介護支援部門）や関係性が強い医療機関と連携を図る。
3. 新規相談者様に関しては、見学から案内までの時間を空けることなく対応していく。

リハビリテーション部業務報告

(担当：齊藤 康明)

- I. 【ミッション】
地域包括ケアシステムへの適応と他事業所、他職種との連携を確立する。
- II. 【ビジョン】
在宅復帰・在宅療養支援機能の推進。地域包括ケアシステムに順応する。
- III. 【ストラテジー】
機能のみならず、活動・参加を意識したリハビリテーションを展開する。
- IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策
 - 1. (1)転倒予防体操の指導を3回行った。(7/18・桐ノ沢、9/16・諏訪沢、12/9・滝沢町会)
 - (2)他施設・事業所から依頼もなく、協働して個別機能訓練計画を作成しなかった。
 - (3)地域ケア会議及び介護予防事業への参加依頼は0件であった。
 - 2. 情報共有から生活リハビリプログラムの設定、また全入所者様に対して3ヶ月おきの評価をし、状態に応じて内容を変更することはできたが、内容に具体性が乏しく、介護職員へのアドバイスも不十分であった。
 - 3. (1)介護予防推進リーダーを取得予定であったが、研修会の日程と都合が合わずに今年度は取得できなかった。
 - (2)専門書購読および自己学習の情報共有ができなかった。(0回)
 - (3)外部の研修へは2回参加した。例年に比べて回数は少なかった。(前年比-7回)

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

(回数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
短期集中リハ	78	102	110	91	88	73	101	115	143	115	66	77
認知症短期集中リハ	37	27	39	56	52	43	52	75	72	50	25	10
短期入所・個別リハ	0	7	1	5	0	8	7	4	2	0	16	9
合計	115	136	150	152	140	124	160	194	217	165	107	96

- VI. 経費に関する重点項目：効率的な投資とそれを実現するための業務改善の具体策
 - 1. 物品経費節約のために、発注前に在庫確認を確実にし、過剰購入しなかった。
 - 2. 修繕費・訓練備品購入はなかった。
 - 3. 訓練プリントや回想法教材を自作した。また工作作成を展示し、面会の家族様にみていただけるようにした。
- VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善の具体策
入所者様のタイムスケジュールを一週間おきにたて、時間の無駄を省けた。

VIII. 評価

昨年度と比較し、加算算定の実施回数は172回増の1756回。加算収入も412,800円増の4,214,400円となった。昨年度は新規入居者の受け入れを制限した時期もあり、今年度は増加するのが当然ではあるが、冬期間～春にかけての新規入所者の受け入れが減少していることが例年通して言える。

IX. 課題

P D C Aサイクルに基づく、リハビリマネジメントの展開によって、より具体的な生活リハビリプログラムの設定をする。それによって在宅復帰や在宅支援の援助を拡大させる。知識の習得に励み、その知識を入所者に還元できるようにする。

給食部業務報告

(担当：小泉 美由紀)

I. 【ミッション】

利用者様の栄養管理の徹底と、安全で食べやすい食事を提供。

II. 【ビジョン】

一人ひとりに合った食事を提供し、利用者様に満足して頂く。

III. 【ストラテジー】

食事観察、残食調査の実施、食材・調理方法の工夫。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 毎月1回行事食の提供→旬の食材を使用した行事食を、毎月1回提供できた。
2. 個別対応：ご飯の摂取が進まない方にはおにぎりやパンで対応（2名）。
3. 通所利用者様へイベント料理の提供：30年度は10回実施できた。
4月24日：握り寿司 7月24日：七夕そうめん祭り 8月24日：天ざる
9月26日：手まり寿司 10月4日：クッキー 11月16日：手作りバイキング
12月22日：クリスマスロールケーキ 1月10日：鶏だんご鍋
2月20日：バレンタインチョコロール 3月20日：三色おはぎ
4. ハーフ食の提供→月平均14名にハーフ食を提供した。
5. 食事勉強会の開催：平成31年3月11日『海厨房』にて実施。調理法、盛り付け等今後の献立作成の参考となった。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率向上の具体策

1. 栄養ケアマネジメント加算：入所者全員の栄養ケア計画を作成。（4,549,800円/年）
2. 療養食加算：糖尿病食（月平均18名）、糖腎食（月1名）、心臓病食（月4名/月）
（1,220,000円/年）

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

項目	金額	内容
修繕費	72,274円	製氷機修理
保守料	260,494円	製氷機、軟水器、冷蔵庫、スチコン、温冷配膳車、真空包装機
備品費	337,066円	ミニスライサー、フードカッター、ミトン、軟水器カートリッジ、スチコン洗剤、シリコンスプーン、飯茶碗等

おやつ代：885,080円（平均73,756円/月）

補食代：4,249,272円（平均354,106円/月）

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善の具体策

食事介助の応援：91回/年（月平均7.5回）

VIII. 評価

通所イベントの回数を増やし、利用者獲得に繋ぐことができた。（昨年4回→今年10回）

IX. 課題

おやつを経費を削減できなかった為、手作り等で調整していきたい。

診療部業務報告

(担当：佐藤 大樹)

I. 【ミッション】

私達は、入所者様と家族様に対し、安心、安全、快適に過ごしていただくために療養環境を整え、他部門と連携したチームワーク、良心的で専門職としての博愛の精神、奉仕の精神をもって看護を提供。

II. 【ビジョン】

1. パーソンセンタードケアの思想に基づいた個別的援助の提供。
2. 入所者様、家族様の希望、思いを大切にし、責任と継続性のある看護の提供。

III. 【ストラテジー】

1. 業務内容の見直しを行い、業務の適切化、効率化、サービスの向上に繋げる。
2. 記録の充実により看護援助を分かり易くする。
3. 入所者様の病状の変化を正確に分析し、その時々適切な看護ケアや緊急対応が行える。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 入所者様の健康管理を徹底して行う。
 - (1) 施設長指示の下、6か月に1回採血を198名（うぐいす組：68名、ひばり組：70名、森組：60名）実施出来た。
 - (2) 定期的に施設長診察を行い922名（うぐいす組：368名、ひばり組：322名、森組：232名）
2. 感染症の防止に努める。
 - (1) 1月にインフルエンザに14名罹患。感染防止対策マニュアルに沿い、重症化の防止に努めた。
 - (2) インフルエンザの予防接種60名、肺炎球菌ワクチンの予防接種5名実施し、重症化を防止出来た。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

看取り介護対象者には、施設長同席の上、家族様に説明し、他部門と連携し、ターミナルケアが実施出来た。（看取り介護対象者：延べ28名）

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

新薬、代替えがない外用薬、感染症の影響があり、コスト削減には繋がらなかった。
（前年比：19.7%増 1,803,384増）

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

処置が多い組には他職員が協力し、入所者様の健康管理に支障なく実施出来た。

VIII. 評価

施設長公休日及び夜間にも連絡を取り、随時指示を受け、健康管理を行うことが出来た。

IX. 課題

感染症が蔓延しない為の感染症予防を職員に徹底して行い感染症0に努めていく。

通所リハビリテーション部業務報告

(担当：佐々木 節子)

- I. 【ミッション】家族様、利用者様の思いを受け止め、個々にあったケアを実践する事により満足の向上を図る。
- II. 【ビジョン】自分の場所、役割があり馴染みの仲間と楽しく過ごす事ができる。
- III. 【ストラテジー】家族様がデイケアからの発信を入れながら在宅生活を送れるようサービスの提供と情報の共有を図る。
- IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策
 1. 利用者様が満足して頂けるサービスを提供する。
 - (1) 利用者様の基本動作の維持と活動・参加を促す事で在宅生活の支援ができた。また、行事や、食事のイベントは好評であり、満足に繋げることが出来た。
 2. 事故防止に努める。
 - (1) 事故件数：3件(紛失1件、転倒1件、転落1件)ひやり・はっと提出件数：131件(転倒106件、転落12件、感染3件、トラブル6件、誤燕・外傷・紛失それぞれ1件)発生場所は過ごし場所とルームが多く78件だった。職員間で話し合い、対策を実施する事で事故予防に努めた。
- V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策
利用率アップを図る。
 1. 利用者様の機能の維持・向上を目指すリハビリテーションの提供と多職種からなるチームケアを実践、また、集団リハビリメニューを実施する事で身体機能の維持に繋がった。しかし、平均利用率は38.7%、一日利用人数は15.5名となり、目標達成できなかった。
 2. 家族様への情報提供として通所リハビリテーション便りの発行(毎月)や連絡帳を活用した。連絡帳では、様々なケアの相談等があり、助言する事で介護疲労軽減を図ることが出来た。
- VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策
送迎コースの見直しと物品の管理を徹底した。送迎コースの見直しは、希望時間も調整が難しく経費削減にならなかった。しかし、物品は在庫管理を徹底し経費削減ができた。
- VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策
業務の見直しを行い、効率よく業務を遂行する。
- VIII. 評価
様々な企画等を準備したが、新規利用者様獲得になかなか繋がらなかった。
- IX. 課題
短時間メニューやシナプソロジーを上手く活用し、魅力ある事業所にする。

入所部介護業務報告

(担当：佐藤 枝里子・鹿内 千枝子・石戸 美帆)

I. 【ミッション】

入所者様・家族様のニーズを把握し、多様なニーズに応えるサービスを提供するとともに、サービスの質の向上に取り組む。

II. 【ビジョン】

入所者様一人ひとりが自分らしい生活を送ることが出来る。

III. 【ストラテジー】

入所者様の立場になって物事を考え、思いやりを持ってケアを行う。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 入所者様のニーズを把握し、根拠のある支援が実施できる。

(1) OJT、OFF-JT の活用。

1) 法人内学習会(11件)法人外研修(1件)参加。知識と技術向上に繋がった。

(2) 月1回の行事を開催し、入所者様同士の交流を図り生活の活性化に繋がった。

(3) 家族様面会時の対応 423件、電話連絡 238件実施。家族様と情報共有をした。

(4) 各組早番・遅番業務の見直しマニュアルを作成し、新採用職員の指導を行った。

2. 安全、安心な生活を支援する。

(1) ひやり・はっとメモ提出件数 646件。うち 280件(43.3%)が転倒事件事例が多かったが、予防対策の話し合いに具体性が乏しく転倒事故は 41件(14.6%)となった。

(2) 介護全職員(46名)が身体拘束学習会に参加し、虐待の種類・グレーゾーンについて学び自身の行動を振り返ることができた。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 入所者様が体調を崩さずリハビリテーションが実施できる。

(1) 健康管理に努める。

1) インフルエンザ発症時、早期に家族様との面会規制・罹患の有無を問わずタミフル服用・罹患者の居室隔離を徹底。発症者 14名に留まり蔓延防止に繋がった。

2. 在宅復帰を目指し生活リズムを整える。

(1) 施設サービス計画に基づく支援を実施することで入所者様 10名が在宅復帰した。

(2) 個々の活動では、体を動かすことや家事作業・読書等を取り入れ日課に繋がった。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

便座での排泄を基本とし 91名中 57名(62.6%)がトイレでの排泄を継続する事ができた。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

入浴調整により、入浴のない日を設け屋内外散歩を実施することで入所者様と職員が楽しみの時間を共有することができた。

VIII. 評価

1. 事故予防に於いては、話し合いの内容が浅く具体性に欠けた為事故に繋がった。

2. 月行事・施設内外の散歩を実施することで単純な日常生活が活性化された。

IX. 課題

1. 事故予防の話し合いをする際は、入所者様の行動について深く考え原因を追究し、事故防止を行っていく。

2. マニュアルを整備し良質のサービスを提供していく。

Ⅱ. 指定介護老人福祉施設樹の里業務報告

1. 事務部業務報告

(担当：丸本 一子)

I. 【ミッション】

施設の窓口として「良い施設」という評価をいただけるように、清潔を心掛け、言葉遣いに注意し、迅速かつ丁寧な対応をしていく。

II. 【ビジョン】

「もの」を大切にし、仕事にかかるコストを抑え「ムダ」を排除する。

III. 【ストラテジー】

仕事の効率をあげるため、ミスや取り違いなどしない様に注意し「正しく」行っていく。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 介護保険改正等については、Q & A等から情報収集をはかり、家族様から質問等あった際に、対応できるよう情報共有した。
2. 季節ごとの装飾を施し、入所者散歩時の会話ツールの役割を果たした。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

生活相談員の増員により、チラシに顔写真を入れたもので作成しリニューアルした。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実施するための削減の具体策

1. 面会時の請求書手渡し可能期間を確保するため、迅速に請求書を作成した結果、切手代の節約につながった。[前年比 11% (5,509 円) の減]
2. 正月に、絵馬やお守りなどを使用済み封筒や段ボールを使用して安価にて作成し、入所者様に喜んでいただいた。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

介護部門の負担軽減のため、入所部門の日報等を事務部門で準備することとした。

VIII. 評価

他科受診予定表を作成し、ランディスクにて情報共有することで、担当不在時の確認作業が容易となった。従来の配布資料等もランディスクに貼付し、紙媒体が減少した。

IX. 課題

会議内容等の回覧は確実に行われたが、伝達が確実にできていないため、周知方法を引き続き模索する。

生活支援部生活相談業務報告

(担当：加藤 貴博)

I. 【ミッション】

入所者様本位の介護サービスが適切に提供されるよう相談・調整をする。

II. 【ビジョン】

お客様がいつでも気軽に相談できるよう信頼関係を深め、安心と満足が得られる

III. 【ストラテジー】

お客様から話してくれるのを待つのではなく、こちらから言葉を掛け、話を伺う。また、お客様からの相談事や要望には迅速かつ丁寧に対応する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 新規利用相談等、各事業所の説明も必要に応じて行う。フロント受付センターとも情報共有する事で樹の里のみではなく、法人内施設サービスの利用へとつなげた。
2. お客様の希望を定期（6ヶ月毎）及び随時確認、サービス計画へ反映させた。
3. 施設サービス計画は、状態変化等の都度見直し、必要時には計画内容を変更し、家族様への説明と同意を得た（37名）

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

	H30.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31.1月	2月	3月	平均
利用率(%)	97.22	98.33	99.06	98.87	99.41	99.56	98.28	98.00	99.57	99.03	99.64	98.55	98.79
稼働率(%)	97.44	98.60	99.17	98.98	99.62	99.67	98.44	98.17	99.68	99.19	99.70	98.55	98.93

	H30.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31.1月	2月	3月	合計
空床数(日)	50	31	17	21	11	8	32	36	8	18	6	27	265

1. 新規入所者様：21名（法人内施設：13名 外部〈医療機関〉：8名）
2. 看護と連携し看取り介護の相談を行い、同意に繋げた。（22/50名）

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

家族様から頂く署名等、面会や訪問を活用し郵送での切手代等経費削減に努めた。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

サービス担当者会議へ出席して頂けるよう、御都合を伺い日程調整を行った。

開催月	H30.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31.1月	2月	3月
対象者数(名)	6	9	7	13	12	12	5	9	7	10	12	12
家族出席(件)	6	8	5	10	12	12	5	8	5	7	12	11
出席率(%)	100.00	88.80	71.40	76.90	100.00	100.00	100.00	88.80	71.40	70.00	100.00	91.60

VIII. 評価

1. 利用率平均 98.79% 7名が延 110 日入院となる。退院調整等によるベッド確保の為に空床が続いてしまった。いちい荘からの新規案内と比較し、外部から案内となると書類作成(利用調査表)や家族様との都合調整等に日数がかかり空床が発生してしまった。
2. サービス担当者会議への家族様参加は、年間平均 88.50%で実施できた。

IX. 課題

1. 新規予定者の利用調査表を事前に作成し、ご案内まで最短の日数で仕上げていく。
2. フロント受付センターとの情報共有や連携を図り、待機者情報を把握・本人様状態確認も事前に行い空床対策に繋げていく。

生活支援部栄養業務報告

(担当：齋藤 奈美子)

I. 【ミッション】

安全に美味しく食べられる食事の提供。

II. 【ビジョン】

入所者様がその時々々の状態にあった食事・水分を摂る事ができる。

III. 【ストラテジー】

食事観察の徹底、食事形態の検討、手作り補食の提供。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. ハーフ食・クォーター食への取り組み

関連部門と連携し、負担なく食事を摂って頂いた。4・5・8・9・12・2・3月に、対応した入所者様に変更。特に2月はインフルエンザによる体調不良により、3名変更となり、流動食・経口流動食を除き、食事提供を行っている41人中14名、34.1%を占めた。

(対応人数推移：表内は人数を記入)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ハーフ食	11	10	10	10	11	11	10	11	11	11	14	12
経口流動	9	10	10	10	10	10	9	7	5	5	6	8

(1) 「食事」提供に拘らず、現在摂取可能な食品を検討し、食欲・体調・体重の維持に努めた。経口流動食(高栄養補助食品を組み合わせ提供)対応者は、入所者様60名中、平均8名。全体の13.3%を占めた。

(2) 職員間での情報を共有し、入所者様の好む飲料を提供。脱水予防に努めた。家族様に働きかけ、好む食べ物等の差し入れを依頼し、食欲回復に努めた。水分不足者6名→水分ゼリー提供。家族様ジュース等持参 8名/47名

(3) 疾患に配慮しながら、食べやすい補食を作成提供した。(糖尿病他3名/8名)

(4) 「食事」提供に拘らず、入所者様が「今一番食べたい物」を関連部門で探り、可能な限り提供した。(6名実施)

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

体調や嗜好の変化等の情報を集め、負担なく食べる事ができるように努めた。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

手作りの補助食を提供する事により、経費の削減を図った。(9名←昨年度6名)

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善の具体策

給食連絡会議資料の回覧で食事形態の変更や体重増減等を関連部門と共有し、業務をスムーズに行う事ができた。

VIII. 評価

1. 体調不良の際に「食事提供中止」にするのではなく、本人様の摂取可能な食品(補助食品、ゼリー等)の形態変更を行う事により(4名対応)、体力を維持し、体重減少を可能な限り抑え、早期回復の一助となったと考える。

2. 連絡を密にすることで、本人様の嗜好や食べたい物等の情報共有が早くすすみ、迅速に対応する事ができた。

IX. 課題

看取り介護に対応するに当たり、口から最後まで食べて頂く為、個人対応を更に充実させる必要がある。

生活支援部看護業務報告

(担当：伊藤 洋平)

I. 【ミッション】

最良の知識と技術の習得で、入所者様の心と健康が維持できるようあらゆるサポートを行う。

II. 【ビジョン】

入所者様にその人らしい生活の場となるよう、健康面の援助を目差す。

III. 【ストラテジー】

望ましい生活になるようチームケアで、入所者様の満足度向上を目指す。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 看取り介護対象者死亡時のマニュアルの見直し・作成したことで業務が円滑に行えた。
2. 9名の褥瘡のケア計画作成。内3名の治癒が認められた。
3. 入所者様個別に排便状況・性状等をアセスメントし、嘱託医指示の下塩類下剤、刺激性下剤の服用調整で便秘の改善に努めた。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 看取り介護と緩和ケアを推進し約半数の利用者様の看取り介護契約となった。他部門と1回/月カンファレンスを行い看取り介護ケアの充実を図った。
2. 3名の入所者様の肺炎球菌ワクチン施行。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 継続した処置が必要なケースは家族に状況報告。家族負担にてテープの購入を行った。
2. 感染症発生状況は、インフルエンザ発生2件/年、ノロウィルスの発生0件/年、疥癬発生0件/年。手洗い、うがい等予防実施や感染ユニット隔離で広範囲の感染拡大なし。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

他科受診に付き添うスタッフの不在時の処置等を、現場に残ったスタッフで業務順位変更を行い、時間の捻出に努めた。

VIII. 評価

褥瘡の発生が多く又、悪化したケースも見られていた。

VI. 課題

介護スタッフへの褥瘡の発生機序や発生後の留意点等理解を深める必要がある。

生活支援部介護業務報告

(担当：加藤 貴博)

I. 【ミッション】

入所者様一人ひとりに人生を全うするまで、その人らしい生活を送って頂く為に尊厳あるケアを提供する。

II. 【ビジョン】

安心・安全・安楽なケアを受け、穏やかに天寿を全うする。

III. 【ストラテジー】

職員一人ひとりが入所者様の心に寄り添ったケアを実践する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 科学的介護の実践

基本ケア(水分・食事・排泄・運動)に基づいた内容で、自立支援に向けたオムツ外しを年間9名程取組んだが、体調不良等による状態悪化があり結果に繋げる事ができなかった。

2. 看取りケアの充実

多職種間で連携し身体的、精神的、心理的、社会的働きかけを実践し最期の時にはエンゼルケアとメイクを実施しお見送りした。

<看取り：22名 H31.3末現在><エンゼルケア：15名実施>

3. 事故防止

以前はひやり・はっとメモの提出は早番勤務者と決まっていたが、全出勤者に気付きの感度を高めて欲しく担当制を廃止した。結果、ひやり・はっとメモの提出件数は減少となってしまった。事故件数に関しては年間40件発生。なかでも皮下出血に関する事故報告書が多かった。

V. 収入に関する重点項目お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

・入所者様の健康管理

日光浴や外気浴を実施し免疫力と抵抗力アップを目指した。目に見えての効果は判断不能だが、気分転換等になり笑顔につながった。感染症に関して、インフルエンザは職員：4名 入所者様：2名が罹患。その後、感染の拡大を防ぎ罹患者はなかった。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現させるための削減の具体策

・職員一人ひとりの経営意識を培いオムツ外しへ繋げる。

受け持ち入所者様の尿量等考慮し、使用オムツの種類等定期的に見直し実施。各々が使用状況や単価を把握する事で経営意識の意識付けへと繋がった。余剰にオムツがある際は、事務と連携し払い戻す等適宜調整できた。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

居室のレイアウトを変更する事で排泄介助時の移乗動作が減り、職員・入所者様双方の体への負担の減少へと繋がった。

VIII. 評価

介護職員不足の中、時間外や役職者による見守りや整容介助等の応援対応した事で、入所者様へのサービスの質を下げないよう取り組むことが出来た。

IX. 課題

ひやり・はっとメモの提出件数が少なく、事故発生がみられる。職員一同リスク管理を徹底し、意識付けすると共にリスク回避能力を身に着けていく。

Ⅲ. 在宅介護支援センターえんじゅ業務報告

(担当：對馬 壽子)

- I. 【ミッション】 住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう支援する。
- II. 【ビジョン】 ネットワークの構築を図り地域の相談窓口として活動する。
- III. 【ストラテジー】 地域の特性に合わせた支援をする。
- IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策
 1. 介護予防教室や健康相談会を通じて、心身ともに健康を維持していただく。
 - (1) 地域での健康相談会・食事会の開催実績
開催地域：諏訪沢・三本木・滝沢・戸山団地・桐ノ沢・駒込・アップルパレス 計7カ所
開催延回数：44回 延参加人数：合計414人
 - (2) 認知症カフェ（東部包括主催） 延回数4回 延参加人数 42名
 - (3) 介護予防普及啓発事業(駒込ハッピーズ) 延回数5回 延参加人数 35名
 2. 地域のネットワークの構築
 - (1) 健康相談会や認知症カフェを通じて地域の住民に在介や包括の周知を行い関係を築いている。
 - (2) 青森市包括・在介連絡会・東部包括月例会・地域ケア会議への参加
- V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策
 1. 定期訪問による安否確認・その他相談による個別訪問件数：計47件
 2. 各地域での高齢者の集会等にてえんじゅの活動紹介や当法人の事業所のPRを行った。
- VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策
 1. 青森市介護予防普及啓発事業委託料 42,500円
 2. 地域包括支援センターランチ委託料 1,656,000円
- VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための時間効率策の具体策
兼務の居宅業務との時間調整が難しかった。
- VIII. 評価
 1. 介護予防教室・健康相談会について
 - (1) 健康相談会では折り紙や作品作り、体操、脳トレ等楽しみながら介護予防できる内容で実施できた。
 - (2) 諏訪沢・滝沢の高齢者を対象にいちい荘通所リハ体験を実施し、参加した方からは「楽しかった」「いつか利用したい」等の声が聞かれ、好評であった。
 2. 総合相談支援について
 - (1) 相談会などの機会を通じて民生委員と独居高齢者の情報交換を行った。
 - (2) 地域包括支援センターと協同で関わった認知症等の相談から居宅サービス利用につなげたケースもあった。
- IX. 課題
 1. 介護予防普及啓発事業でロコモ体操を実施する地域を増やせるように周知する。
 2. 相談会の参加者が増えない地域(三本木・滝沢)に多くの方が参加してもらえるよう民生委員や町会と協力していく。
 3. 民生委員の定例会に参加し地域包括支援センター・在宅介護支援センターの役割の周知を行う。

IV. 居宅介護支援事業所はなまる業務報告

(担当：工藤 達巳)

I. 【ミッション】

利用者様がその有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるように援助する。

II. 【ビジョン】

利用者様の尊厳を保持し、満足頂ける質の高い援助を提供する。

III. 【ストラテジー】

利用者様の声を聴き、迅速な対応と利用者様本位のサービス調整を行う。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 法人内外のサービス事業所と連携して利用者様のニーズ・課題を把握して「その人らしさ」を基準に利用者様本位のケアプランを作成する。

(1) 1,122 件作成、介護給付費請求(前年度比-72 件)

2. 青森市東部地域包括支援センター等、福祉・介護機関、医療機関との連携・情報交換を行い地域の機関としての役割を果たしていく。

(1) 他法人事業所と共同事例検討会開催(9/2 はなまる、11/21 居宅和幸福園)

3. 人として徳性を高める。専門職として積極的に自己研鑽に励む。

医療連携フォーラム、日常生活圏域ケア会議、ケアマネ研修会等に参加。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 在宅介護支援センターと連携し、東部地域包括支援センターから支援困難ケースの紹介に対応していく。(特定事業所加算要件の充実) ①定例週会議開催、共同事例検討会開催。

2. 介護予防支援者の受け入れを強化する。(継続)

(1) 176 件 683,880 円委託契約費請求。

(2) 青森県看護予防支援従事者研修、介護予防ケアマネジメント研修会参加。

3. 医療との連携強化(入退院時連携加算/末期癌マネジメント/医療系サービスとの連携)

(1) 入院時情報連携加算請求(2) 医療系サービス利用者は医療機関にケアプランを交付。

4. 認定調査は市町村と委託契約し業務を遂行する。

①303 件 1,195,119 円請求。(五所川原市、野辺地町、横浜市等 24 件含む)

VI. 経費に関する重点項目：効率的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 節約(再資源化、減らす、再使用)を意識し業務遂行、物品は大切に使用する。

2. 資料は整理し保管体制を整える。買い替えは計画的に行う。

スキャナー購入(35,554 円)、他はトナー・切手補充、車両整備費用等

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

1. 届出・事務手続き、車両の使用は省力化を図れるようにスタッフで連携する。

2. 出勤も連携して業務調整する。(営業時間外の電話対応実績 24 件。)

VIII. 評価

業務を予定どおり遂行し、ほぼ予算額の収入成果を上げる事ができた。

IX. 課題

利用者数、内部売り数とも平成 29 年度より若干減少、新規開拓が必要。

V. 訪問看護ステーションひまわり業務報告

(担当：木村 聡子)

I. 【ミッション】

利用者様の住み慣れた場所で、安心・満足な生活を送って頂けるようあらゆる看護サービスを提供する。

II. 【ビジョン】

疾病や家庭環境などどのような問題を抱えていても、その人らしい生活を送れるような看護サービスを出来る事業所を目指す。

III. 【ストラテジー】

在宅で療養する人々が持つ多様なニーズに対応し、家族をも含めて支援をして行く。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 状態不良時には主治医へ状態報告し、指示を仰ぎ対応。在宅生活を継続できた。
2. 在宅で看取った家族やりハビリで訪問している家族様から感謝の言葉が聞かれた。

V. 収入に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 利用者様状況

	H30年度	H29年度	前年比
新規利用者様	29名	29名	±0名
利用終了(死亡)	28名(4)	25名(13)	+3(-9)名
のべ訪問件数	3,184件	3,330件	-146件

2. 収入

	H30年度	H29年度	前年度との対比
GHとの医療連携	3,600,000	3,600,000	±0
介護保険	9,926,616	8,402,401	+1,524,215
医療保険	11,948,854	16,159,377	-4,210,523
利用者様負担分	2,665,192	2,357,269	+307,923
合計(円)	28,140,662	30,519,047	-2,378,385

VI. 経費重点項目に関する重点項目：効果的な投資と実現する為の業務改善の具体策

1. 年間ガソリン代：361,896円(前年度比+106,600円)千刈方面への訪問増となり、ガソリン代が増えた。
2. 車両に伴う支出：268,927円(前年度比+169,675円)オイル交換、車検3台分。

VII. 時間重点項目に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善策の具体策

コスモスへの時間移動：年間430.0時間(事務時間)

VIII. 評価

1. 病院や介護支援専門員からの急ぎの新規訪問依頼にも対応する事が出来た。
2. 関わりのある施設からの訪問紹介があり、新規利用者獲得へと繋げる事が出来た。
3. 車の事故が3件あり。安全運転を心掛ける必要あり。

IX. 課題

1. スタッフとのコミュニケーションを大切にし、モチベーションを保ちつつ、一致団結して業務遂行していく。
2. 文献や研修等に積極的に参加し、医療機器や最新の情報等を習得し、看護の質をより向上させる。

Ⅵ. ヘルパーステーションコスモス業務報告

(担当：花田 幸子)

Ⅰ. 【ミッション】

利用者様を尊重し、介護状態に沿ったサービスとその人らしい生活が継続できる支援を行う。

Ⅱ. 【ビジョン】

利用者様が望む場所で、その人らしく安心な生活が継続でき満足していただけるサービスを目指す。

Ⅲ. 【ストラテジー】

利用者様との信頼関係を築き、安心安全なサービスを提供する。

Ⅳ. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 利用者様毎の個別プランの意味を全職員が理解し、内容を把握してサービスを行った。
2. 新人職員の参加があったが、学習会において情報を共有することができた。
3. 法人内の介護実践における研修会にて、全職員が介護技術の向上につとめた。
4. 高齢者の身体の特徴や体調変化を理解し、対応が早くスムーズに行えるようになった。

Ⅴ. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

居宅支援事業所や地域包括センターとの連携強化や営業活動の結果、新規利用者様は前年度と同様の獲得数があったが、介護サービスの算定単価の見直し等があった為、前年度よりも減収となった。

	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度との対比
総収入	16,064,024	15,596,226	-467,798

	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度との対比
新規利用者様	25 名	28 名	+ 3 名
終了者様	18 名	17 名	-1 名

Ⅵ. 経費に関する重点項目：効率的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 効率的な訪問を予定したが、新職員の増加による同行等、経費の節約に結びつける事は困難であった。
2. 年度の収入目標を達成することはできたが算定単位の改定等の為、今後の課題が残った。

Ⅶ. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための時間効率策の具体策

1. 効率の良い訪問計画をたて移動時間を短縮する事ができた。
2. 職員間の連絡事項は円滑に行い、連絡ミス無く訪問を行った。

Ⅷ. 評価

新規獲得件数の前年度比は増加しているものの、総収入では減収となった。

Ⅸ. 課題

生活援助の算定単価が下がった為、前年比減収とならない様、身体介護等収入増に繋がる利用者様の獲得が今後の課題とされる。また、のべ人数の増加により、サービス提供責任者の設定増があったため、事業所の経費等の見直しが課題となった。

Ⅶ. デイサービスセンター実見業務報告

(担当：和田 真理子)

- I. 【ミッション】
利用者様が生きる価値と希望を持って暮らす。
- II. 【ビジョン】
認知症対応型として絶対的な信頼を得る。
- III. 【ストラテジー】
個別の機能低下防止メニューと楽しみを見出す。
- IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策
認知症ケアの理念を理解して実践できるスタッフの育成に取り組んだ。スタッフには、S T A Yの精神で利用者様の訴えをありのまま全てを受け入れるように指導した。
- V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策
 1. 年間を通じて利用率73.29%だった。(H29は85.83%)
 - (1) 受け入れ困難とされる方の積極的な受け入れをした。
 - (2) 相談には丁寧に対応し、チームケアを実践した。
 - (3) 居宅介護支援事業所へ挨拶にいき、実見をアピールした。(延べ22回)
- VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策
 1. 生活の環境を整える。
車両は、故障時を早期に庶務に相談する事で大きな故障はなかった。
- VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策
 1. 個別ケアを重視し、適切なケアを実践した。
ひやり・はっとメモを提出・検討し合い、事故防止に繋げた。
(ひやり・はっとメモ提出件数：368件/年)
- VIII. 評価
 1. 他事業所で利用困難になったケースや困難事例の方を受け入れてきた。
 2. 昨年度より、利用率が下がった。入院・死去するケースもあったが、お客様の獲得が伴わなかった。
 3. 1月にインフルエンザ罹患者(4名)・入院者(肺炎1名)が出た為、減収となった。
- IX. 課題
 1. お客様が利用終了となった際に新規お客様が獲得できるよう挨拶まわりを継続する。
 2. 冬場は適切な湿度になるよう、加湿や保湿タオルを継続するが、湿度は40%を切る事がある。

VIII. グループホーム星遊荘業務報告

(担当者：坂本 幸雄)

I. 【ミッション】

健康を維持し、笑顔で生き生きと生活できる。

II. 【ビジョン】

発する言葉、表情、仕草からその人の気持ちを理解し、入居者様本位のケアができる。

III. 【ストラテジー】

「STAYの精神」を実践する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動の発信の具体策

1. サービスの実施状況

月	行事名	月	行事名	月	行事名
4月	健康相談会	8月	灯籠流し	12月	餅つき
5月	観桜会	9月	敬老の日	1月	星遊荘大祭
6月	花苗植え付け	10月	健康相談会	2月	節分
7月	七夕、願い事	11月	保育園おゆうぎ会	3月	ひな祭り

(1) 誕生日会は誕生月に開催、9回。(2) 料理教室 2回、
(3) 運営推進会議6回、(4) 避難訓練2回、7/23(夜間想定)、10/31(日中想定)

2. 人材育成 星遊荘学習会

(1) 身体的拘束適正化検討委員会12回 (2) ひやり・はっとメモの対策10回
(3) STAYの精神1回 (4) タミル語について1回 (5) 米の研ぎ方1回
(6) セミナー参加報告1回 (7) グループホーム運営基準1回。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 入居者様の健康管理・受診状況(のべ回数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
臨時・他科受診	7	9	8	2	6	3	4	2	3	8	3	1	56

2. 稼働率：延べ利用日数 3,285日 稼働率100%

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 主な経費明細 (1) シャワー椅子買い替え16,200円 (2) 換気扇交換9,569円
(3) 大便器修理43,200円 (4) FF暖房機修理31,000円。

2. ゼリー作りマニュアル 味、硬さ、提供量を均一にするためマニュアル作成

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

職員会議毎月1回開催、内アメーバ経営について学習3回。

VIII. 評価

職員による一般状態の観察がよくできて、急な入院の発生がなかった。

IX. 課題

入居者様のADL低下により職員の介助負担が増加している。負担軽減策を検討して、入居者様と職員ともに負担軽減できるようにする必要がある。

Ⅷ. グループホームはくちょう荘業務報告

(担当：藤田 貞子)

- I. 【ミッション】
入居者様がその人らしく居心地の良い場所で希望を持って暮らせる。
- II. 【ビジョン】
自分の居場所、役割があり、馴染の人間関係で安心して生活が出来る。
- III. 【ストラテジー】
認知症ケアを理解し、家族様、新しい地域の方との交流を持つ。
- IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策
1. 尊厳を全う出来るよう2名の看取りケア（外部研修5回、事業所内学習6回）
 2. 運動会、敬老会の参加で地域の関わりや家族様への報告は毎月継続できた。
 3. 委員会学習を毎月学習し、運営推進会議（隔月6回）で事例等も情報公開。
- V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策
1. 健康維持と異常の早期発見で満床に努めた。（月平均98.74% 死亡退去3名）
（1）予防接種、月1回の定期受診、毎日の健康チェックで感染症の発症を防いだ。
 2. 家族様へアンケートの結果、顧客満足度は100%であった。
サービス担当者会議を計画に沿って開催。入居者様のニーズを捉えてケアを実践。
- VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策
1. 消耗品の在庫確認(1/W)、備品の代替えとなる工夫と点検。
 2. 目的を持って機能訓練や生活リハビリを希望に沿い計画実施した。
料理教室（毎月1回）行事（予定通り実施）レクリエーション（毎日）おやつ作り（毎日）

月	行事名
4	昭和の日、花植え、花見散歩
5	観桜会、母の日、憲法記念日、みどりの日
6	父の日、ドライブ
7	七夕、海の日（外出）バーベキュー
8	夏祭り、お盆、ねぶた小屋見学 山の日（外出）
9	十五夜、敬老会、秋分の日（秋彼岸）
10	バーベキュー、ドライブ、体育の日（運動会）
11	紅葉狩り、勤労感謝の日、文化の日（作品展示）
12	クリスマス会、天皇誕生日、大晦日
1	お正月（初詣）、小正月（料理）
2	節分（豆まき）、建国記念日
3	ひな祭り、春分の日（春彼岸）

- VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策
1. 業務改善や支援の統一を職員会議(1/M)や連絡会議(2/M)で確認し合った。
（1）改善メモ（昨年度0枚から12枚へ）
（2）ひやり・はっとメモ（昨年度5枚から13枚へ）
 2. 業務マニュアルや業務遂行方法を申し送り確認し、サービスの質向上に繋げた。
- VIII. 評価
移転後も地域との交流に心掛け、今後の活動に繋げることが出来た。
- IX. 課題
1. 尊厳を守る看取りケアの充実と、入居者様の生活に適した施設の紹介。
 2. ADL低下と看取り希望が月平均2名～3名で対応できる活動が制限される。
※職員の急な休みや長期休暇に対応が難しい。

X. グループホーム宮田館業務報告

(担当：原子 幸弘)

I. 【ミッション】

その人らしく安心して生活することができる。

II. 【ビジョン】

自分の居場所、役割があり、馴染みの人間関係の中で安心して生活できる。

III. 【ストラテジー】

家族様、地域の方の繋がりが継続できる環境作りをし、職員は馴染みの関係が構築できるようコミュニケーション技術・認知症ケアを習得する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 法人内の学習会に参加しサービスの質の向上に繋がれた。
2. 職員会議（年12回）身体拘束ゼロ学習会を毎回開催。
3. 入居者様が持っている能力に応じ役割がある生活を支援。（毎日）
4. 運営推進会議開催（年6回）
5. 避難訓練（年4回）昼間想定2回（地域消防団合同避難訓練内1回）、夜間想定2回

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・の維持の向上具体策

1. 入居者様の健康管理 受診状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
臨時・他科受診（延べ回数）	4	9	11	21	12	9	18	18	13	8	7	6

2. 稼働率： 延べ利用日数 3,276日 稼働率 99.7%

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 季節を感じ、回想法に繋がる料理教室を毎月1回実施。（年12回）
2. 誕生日を当日に開催し、手作りケーキとプレゼントでお祝い。（9名様）

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

1. サービス時間を捻出の為業務改善（年4回）
2. 外出支援 延べ人数366名
3. 地域行事を通して地域の皆さまと交流をもつことができた。（年10回）

その他、地域の行きつけの床屋、美容院で散髪、パーマ（8名様）

月	行事名	月	行事名
4月	東陽小学校入学式参加	5月	法人観桜会、母の日
6月	父の日		東陽小学校運動会見物
7月	七夕（短冊に願い事を書く）	8月	ねぶた見物
9月	宮田地区敬老会出席 東陽小学校バザー出席	10月	「認知症カフェあずまだけ」参加 東陽小学校学習発表会見物
11月	宮田保育園お遊戯会見物	12月	クリスマス会、年越し
1月	「認知症カフェあずまだけ」参加	2月	節分（豆まき）
3月	桃の節句	3月	東陽小学校卒業式出席

VIII. 評価

地域の皆様とお付き合いが出来ている。今後も地域の一員として継続していく。

IX. 課題

個々が持っている力を十分に発揮出来る環境を整え自立支援を継続する。

XI. ケアハウスリラ業務報告

(担当：中村 洋二)

I. 【ミッション】

健康管理、社会性維持に努め、一人ひとりのライフスタイルに合った生活支援を実施する。

II. 【ビジョン】

長寿であることを喜びながら暮らせる施設となる。

III. 【ストラテジー】

楽しく生活が送れるように日常の交流と活動に取り組む。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 日常にアクセントをもたらすような余暇活動を活かして心身の健康を維持する。

(1) 余暇活動、介護予防活動の実施状況（年間参加人数延べ3,330名）

・軽体操 634名：健康相談会251名；脳トレお話し会 544名：カラオケ664名：紙芝居40名：集団レクリエーションゲーム287名：コーヒータイム910名

(2) 地域との交流の機会を設け、情報交換や地域住民との交流を図る。

・出張理美容サービスを利用をした。月1回実施、毎回4～5名が利用している。自分自身で「整容」を意識するようになった。

・節分・ひな祭り・観桜会・七夕飾り・年末行事まで季節感を楽しんでいた。

2. 健康管理に努め、安心して過ごせる場にする。

・服薬管理サポートにより飲み忘れの防止を徹底した。(10名：約80種の服薬管理)

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 体調不良者等による医療機関等への長期入院を防止する。

(1) 体温、血圧を毎日確認し、状態を把握し早期対応を行う。

・体調不良者に対して病院受診を促し早期にインフルエンザ罹患を発見し施設内の蔓延を防止した。(入居者様1名インフルエンザ罹患：完全隔離対策を実施し拡散を防いだ)

(2) 利用料：総請求額13,328,163円 運営事業補助金12,570,497円

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

外壁の補修が行われた。工事費1,300万円の支出により外観が一新した。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

業務の簡略化見直しを行い、既存業務を整理・軽減し入居者様とのコミュニケーションタイムを増やし、活動参加増に繋がった。

VIII. 評価

A D Lが低下傾向にある入居者様の観察を継続し、自立が困難になった入居者様に対して次のライフステージへスムーズに移れるように情報提供・経過観察記録等の準備、早期対応が出来た。

IX. 課題

ケアハウスでの生活が厳しく成りつつある入居者様のフォロー体制が必要。

事業報告の付属明細書

平成30年度の事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

社会福祉法人諏訪ノ森会
理事長 齊藤悦生